

エイズ・結核・マラリアのない
未来に向けて日本の力を



FGFJレポート

グローバルファンド日本委員会
Friends of the Global Fund, Japan
Joining the Fight Against AIDS, Tuberculosis and Malaria

Autumn 2020
<http://fgfj.jcie.or.jp>

No.
23



Photo by Hugues Ahounou/Catholic Relief Services

グローバルファンド 50億ドルの追加資金を世界に呼びかける

新型コロナ対応強化と三大感染症との闘いの継続

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の脅威は未だ衰えることなく、世界全体での感染者数は9月中旬現在、3100万人を超え、約97万人が死亡しています。グローバルファンドの支援対象国でも影響は顕著で、グローバルファンドが最も多くの支援を行うアフリカでは8月初めに感染者が100万人を超えました。世界で最も結核が蔓延している国の一つインドでは7月以降急速に新型コロナウイルスの感染が広がり、9月には1日7~9万人強が新たに感染し、1日あたりの新規感染者数は世界最多となっています(※ジョンズ・ホプキンス大学調べ)。

グローバルファンドは様々な支援策を通じて、新型コロナウイルスに対応しています。その根底にあるのは、第1に、新型コロナウイルスにより三大感染症対策に遅れや中断が出るのを最小限に抑えること、第2に、感染症を専門とする世界最大の資金供与機関として培ってきた知見をフルに活かし新型コロナウイルスの流行収束に貢献すること、の2点です。このために、グローバルファンドは新たに50億米ドルの資金調達を世界に呼びかけています。

初期の緊急支援

新型コロナウイルスは、間接的に他の疾病にも大きな影響を与えています。後述するように、三大感染症分野でも医薬品の在庫不足、社会的距離政策による予防や治療サ

ービスの中断や減少、治療や検査を受ける行動を控える傾向など、一部で深刻な影響が出始めています。保健システムが崩壊し三大感染症のサービスが中断すれば、2020年の三大感染症による死亡数は最悪の場合、倍増する可能性がある」と推計する研究も発表されています(p.3参照)。こうした影響を最小限に抑えるため、グローバルファンドは、4月以来、次々と支援策を打ち出し、8月末までに103か国と11の多国間プログラムに対し、合計で7億米ドル(約738億円)近くの支援を承認しました。

新型コロナウイルスへの対応をさらに強化し、エイズ、結核、マラリア対策プログラムへの影響を最小限に抑え、緊急に保健医療システムやコミュニティ・システムを強化することを目的としています。

必要物資の調達への対応

グローバルファンドの特長の一つは、その調達・供給網です。保健医療資材では最大規模(年間10億ドル)の調達機関としての役割を活用し、新型コロナウイルス流行下においても、品質が保証された必要物資の流通を確保するために、サプライヤーやパートナーと連携して、治療薬(抗レトロウイルス薬、結核・マラリアの治療薬)、蚊帳、診断検査機器などの主要な物資の供給や、物流の状況をモニタリングして、パートナーやそれぞれの国が必要な物資を調達するための方策を

グローバルファンドによる新型コロナ対策資金ニーズの内訳

エイズ、結核、マラリア・プログラムの適応策 (10 億ドル)	エイズ、結核、マラリア・プログラムを現在の新型コロナウイルス感染症下の事態に適応させる策を講じることにより、三大感染症への悪影響を抑え、既存のプログラムの効果を持続。
保健医療従事者の支援 (18 億ドル)	新型コロナウイルスとの闘いの最前線で活動する保健医療従事者やコミュニティ・ヘルスワーカーを守るため、マスクや手袋等の個人防護具の配布を支援。
保健システムの強化 (9 億ドル)	グローバルファンドが支援する国々の検査体制や供給網を強化、脆弱化したコミュニティを支援し、三大感染症にも新型コロナウイルスのような新たな脅威にも対応できるよう保健システムを強化。
新型コロナウイルスの診断検査と治療薬の調達・供給の支援 (23 億ドル)	新型コロナウイルス感染症の診断・検査能力を強化、診断検査キットが低・中所得国にも公平にいきわたるよう一定数を確保し、各国の調達・供給を支援。さらに治療薬が開発され使用可能になった際には、手ごろな価格で配布されるよう調達・供給を支援。



Photo by The Global Fund

出典:グローバルファンド資料。金額は、グローバルファンド支援対象国約120ヵ国が今後12か月間で新型コロナウイルス対策に必要な額もしくはACTアクセラレーターによる資金需要予測に、グローバルファンドが貢献する比率を乗じたもの。上記合計60億ドルのうち、調達済みの資金から充当する10億ドルを減じた50億ドルが新規の調達目標。

提案しています。

さらに7月には、グローバルファンド独自のオンライン調達ツール「wambo.org」の対象製品を新型コロナウイルス関連の物資にも広げました。グローバルファンドから支援を受ける人々が、マスクやガウンなど個人防護具を含む、新型コロナウイルス対策のための必要物資によりアクセスしやすくなるようにしています。

新たな国際協働の仕組み「ACTアクセラレーター」への参画

4月24日に欧州委員会やWHO等の呼びかけのもと、新型コロナウイルスに対応する新しい国際協働の仕組み「Access to COVID-19 Tools Accelerator」(ACTアクセラレーター)が立ち上がりました。新型コロナウイルス感染症対策の切り札となる新しいツール(ワクチン、治療薬、診断・検査)の開発・生産・公平なアクセスを実現するための仕組みです。グローバルファンドは、感染症分野では最大級の規模で低・中所得国に検査キットを調達・供給してきたこれまでの実績が認められ、ACTアクセラレーターのうち診断パートナーシップの部門で、感染症のための新しい診断薬の開発とアクセスを支援する非営利組織FINDとともに共同議長(co-convenor)の役割を担うことになりました。品質が保証され、迅速・簡便に診断ができる検査キットが手ごろな価格で低・中所得国にも公平にいきわたるようになることがグロ

ーバルファンドの主な役割です。また、分野横断・保健システム強化部門でも世界銀行とともに共同議長となり、さらに治療薬パートナーシップ部門では、治療薬が開発された後の調達と拡充のための準備を主導しています。

新たに50億ドルの資金ニーズ

前述の通り、グローバルファンドは緊急支援のためこれまでに合計約7億ドルを承認してきました。これらの資金は、すでに調達した資金の中から、為替差益分を利用したりコスト削減による節約などを通じて捻出されたものですが、あくまでも初期の緊急支援のための資金であり、絶対額は不足しています。多くの低・中所得国では新型コロナウイルスの感染拡大防止や、三大感染症への影響を抑えるための努力は道半ばであり、各国からの追加資金支援要請は長期にわたり増えていくことが予測されます。新たにACTアクセラレーターで果たすべき役割も増えたことから、グローバルファンドは6月末に、今後12か月間に新規に50億ドル(約5,276億円)が必要であると試算を発表しました。これに呼応し、ドイツのメルケル首相は6月末にグローバルファンドへの1.5億ユーロ(約184億円)の追加拠出を発表しました。グローバルファンドは、同様に各国政府やパートナーに資金の緊急動員を呼び掛けています。

新型コロナが引き起こす三大感染症対策への「連鎖反応」

エイズ・結核・マラリア関連死亡数やプログラム実施に影響

新型コロナウイルスのパンデミックは、エイズ、結核、マラリアなど他の疾病対策にも大きな影響を与えています。

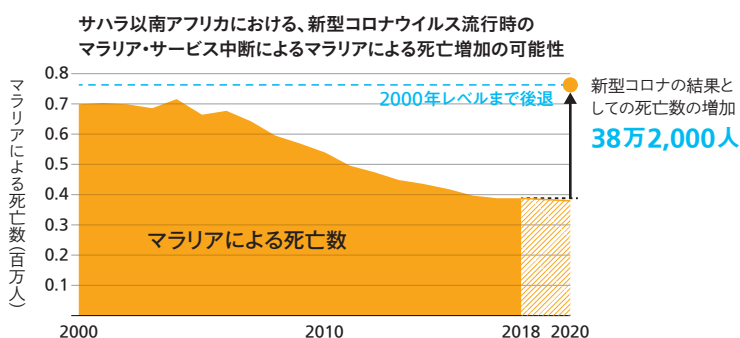
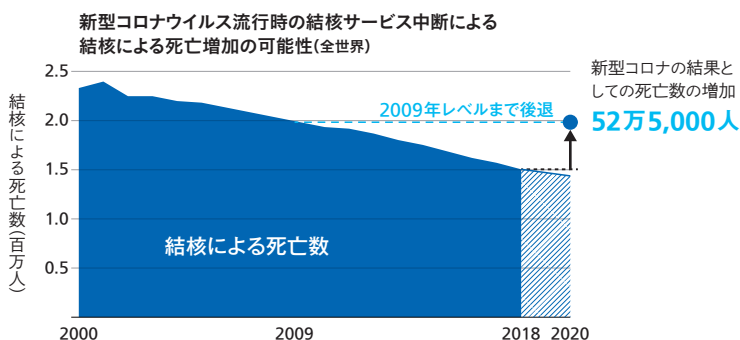
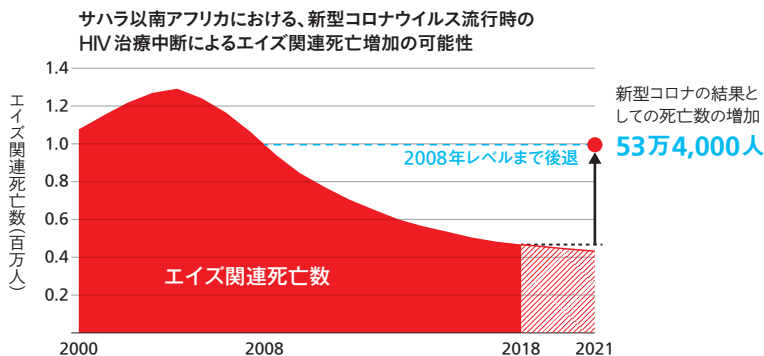
新型コロナウイルスの流行拡大を防止するためのロックダウンや移動制限といった対策によるダメージも小さくありません。

エイズ・結核・マラリアによる死亡数が倍増する恐れ

グローバルファンドは6月24日に、新型コロナウイルスによる三大感染症への影響とその回避の方策に関するレポートMitigating the Impact of COVID-19 on Countries Affected by HIV, Tuberculosis and Malariaを発表しました。本レポートでグローバルファンドは、新型コロナウイルスの影響が拡大すると、2020年の1年間のエイズ、結核、マラリアによる死亡数は2018年と比べ最大で2倍まで増える可能性がある、としています。本レポートで引用されているUNAIDS、WHOおよびストップ結核パートナーシップ(STBP)による複数のモデリング研究では、新型コロナウイ

ルスの影響により保健システムが崩壊し三大感染症のサービスが中断すれば、2020年の各疾病の死者数は以下の通り大幅に増加する可能性がある」と推計結果が発表されています。

2018年の三大感染症による世界の死亡者数(約240万人)は2000年代前半の流行のピーク時と比較するとほぼ半減しており、これはグローバルファンドをはじめ国際社会の努力の結果が顕著に表れたものです。しかし、上記のモデリング研究の推計は、今回の新型コロナウイルス感染拡大に対して緊急の対応を取らなければ、エイズ関連死亡数は2008年レベルに、結核による死亡数は2009年レベルに、マラリアによる死亡数は2000年レベルにまで後退することを示しています。



●=新型コロナによりHIV治療サービスに6か月間影響が出た場合のエイズ関連死亡数の増加(推計)

(2020-21年の12か月間の死亡数と2018年の死亡数の比較)

▨=新型コロナ流行以前の傾向が続く想定に基づいたエイズ関連推定死亡数

- 2000～2018年のエイズ関連死亡数はUNAIDS推計(2019年発表)
- 出典:グローバルファンド・ウェブサイト(一部改変)。死亡数増加の推計はWHOとUNAIDSによるモデリング研究(2020年)による。

●=新型コロナの影響で、3カ月間のロックダウンが続きサービスの復旧に10カ月に要し、結核に対するサービスが中断した場合の結核による死亡数(HIV陽性者の死亡も含む)の増加(推定)

(2018年と2020年の死亡数の比較)

▨=新型コロナ流行以前の傾向が続く想定に基づいた結核による推定死亡数

- 2000～2018年の結核による死亡数(HIV陽性者の死亡を含む)はWHO Global TB Report 2019に基づく
- 出典:グローバルファンド・ウェブサイト(一部改変)。死亡数増加の推計は、Stop TB Partnership等によるモデリング研究(2020年)による。

●=新型コロナの影響で、蚊帳配布キャンペーンが中止されたり、継続的な蚊帳配布や治療の提供に深刻な影響(75%減少)が生じた場合のマラリアによる死亡数の増加(推計)

(2018年と2020年の死亡数の比較)

▨=新型コロナ流行以前の傾向が続く想定に基づいたマラリアによる推定死亡数

- 2000～2018年のマラリアによる死亡数は、WHO World Malaria Report 2019に基づく
- 出典:グローバルファンド・ウェブサイト(一部改変)。死亡数増加の推計はWHOのモデリング研究(2020年)による

グローバルファンド支援国で 4分の3のプログラムに打撃

グローバルファンドは、支援対象となる世界106か国で実施中のエイズ、結核、マラリア対策プログラムへの新型コロナウイルス感染症の影響について定性調査^(*)を実施し、全プログラムのうち4分の3が大きな影響を受けているという調査結果を報告しました。

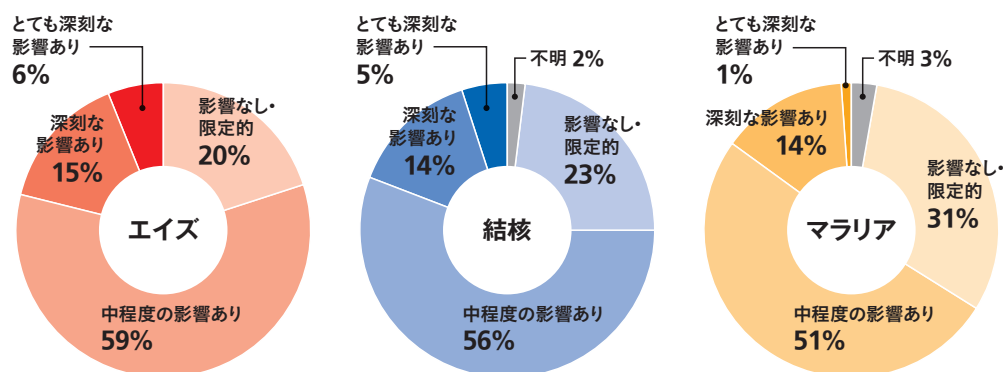
新型コロナウイルスによる影響は、以下のように多岐にわたります。

- ロックダウンによりサービス自体を実施できない
- 人が集まる場を持つことができないため、予防プログラムが実施できない

- 物流が止まることにより、医薬品などの在庫が不足する
- 新型コロナウイルス感染症の症状が結核やマラリアの初期症状と似ているため、保健医療従事者が結核やマラリア対策に関わることを避けるようになる
- 新型コロナウイルス感染の恐れや経済的な困窮により、受診や検査、その他保健サービスを受けなくなる

それぞれの国やコミュニティは、スマートフォンアプリを用いた結核の治療管理や、エイズ・結核を患う人々に対する数か月分の治療薬の処方、蚊帳をはじめとする必要物資の戸別配達など、新型コロナウイルスの流行下で、エイズ、結核、マラリアに関する保健医療サービスを安全に提供ができるように、新しいアプローチを模索し実施しています。

図: 新型コロナウイルス感染症の三大感染症対策プログラムへの影響に関する調査結果 ※2020年6月15日時点の調査結果



* グローバルファンドによる助成金の執行状況と成果をモニターしている各国の資金管理機関がオンラインで隔週調査を実施。調査の結果はプログラムに対する潜在的なリスクや打撃を把握するためのものであるが、定性調査のため、各国の状況を厳格に評価・解釈するものではない。情報は各国の国内関係者の見解に基づき、検証や調整は行っていない。

グローバルファンドのレポート全文(英語)はQRコードからご覧ください



Data source: Global Fund website <https://globalfund.exposure.co/disruptions-in-hiv-tb-and-malaria-programs-due-to-covid19>

FGFJトピックス

【紹介】現場の声を伝えるビデオ 『続くHIV・エイズとの闘い』日本語字幕版公開

新型コロナウイルス感染拡大という新たな困難に直面しつつ、世界各地でさまざまな立場の人たちがHIV・エイズとの闘いを続けています。グローバルファンド公式サイト The Fight Continues というページでは、新型コロナウイルスのパンデミックのもとでエイズ・結核・マラリアとの闘いを続ける54人からのメッセージビデオを紹介しています(英語)。

ビデオに登場するのは、コミュニティ・ヘルスワーカー、カウンセラー、HIV陽性者やエイズ、結核、マラリアに影響を受けている人々、ピア・エデュケーター、市民社会の

指導者、草の根のアクティビストといった人々です。彼らは、新型コロナウイルスのパンデミックという新たな現実に対応し、それぞれが工夫して自らの役割を果たそうとしています。

また、FGFJの公式サイトでは、そのトレーラービデオ(2分50秒)に日本語字幕をつけて公開しました。新型コロナウイルスの感染が拡大する状況下で、エイズ分野ではどのような問題や課題に直面しているのか、エイズとの闘いをどのように継続しているのか、生の声をぜひお聞きください。



FGFJとJCIE

グローバルファンド日本委員会(FGFJ)は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)を支援する日本の民間イニシアティブです。グローバルファンドに対する理解の促進と、感染症分野における日本の国際貢献の強化のために各種会合や調査、情報発信を行なっています。

民間外交のパイオニアである(公財)日本国際交流センター(JCIE)のプログラムとして運営されています。



FGFJレポート

2020年10月1日 No.23

編集・発行: 公益財団法人 日本国際交流センター(JCIE)

編集・発行人: 伊藤聡子(グローバルファンド日本委員会事務局長)

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目1番12号 明産溜池ビル7F

Tel: 03-6277-7811(代表)

Mail: fgfj@jcie.or.jp <http://fgfj.jcie.or.jp>

編集協力: 宮田一雄、永易至文、加納啓善

Copyright ©日本国際交流センター 無断転載禁止